

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	西村 紀子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》

基礎文法を学び、英文法の知識を再確認する。日常会話でよく使う「文型」を多く挙げ、英語の表現に親しんでいく。毎回語彙テストを行い、語彙や熟語を増やすことを心掛ける。

《教科書》

プリント配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

期末試験のフィードバックは希望に応じて行います。

《授業の到達目標》

中学までに学んだ基礎的な文法や語彙を確認し、同時に日常会話に必要な表現も身につけ、総合的に学習を進める。英語力に必要な基本的文法構造を学び習得し、基礎的語学力を身につける。

《成績評価基準》

授業で学習した基礎的な文法を理解しているか。日常会話に必要な表現が身についているか。基本的文法構造を理解し、読む書く聞く話すの4技能につなげられているか。

《成績評価の方法》

筆記試験 30% レポート -%
 課題 -% 実技 -%
 授業の取組 35%
 その他(提出物) 35%

《参考図書》

「英会話の基本文型 87」

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	英文構造について	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
2	品詞について Be動詞	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
3	一般動詞	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
4	一般動詞とBe動詞の区別、応用練習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
5	時制(現在、過去、現在・過去進行形)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
6	時制(現在、過去、現在・過去進行形)演習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
7	文の種類(肯定文、否定文、疑問文)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
8	文の種類(肯定文、否定文、疑問文)演習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
9	疑問詞を使う疑問文	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
10	疑問詞を使う疑問文演習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
11	接続詞を使った英作文	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
12	接続詞を使った会話文	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
13	頻度の高い動詞句(希望、予定、強制)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
14	練習、前期学習内容の総復習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
15	前期学習内容の理解確認	復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)

《基礎科目》

科目名	キャリア演習				
担当者氏名	高木 富士男、小川 茜				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。				

《授業の概要》

1. キャリア形成、社会人基礎力向上に関する授業を行います
2. 個人で課題を設定し、解決する取り組みを行います。
実習報告会ではスーツ着用、髪色は黒か茶とします。

《教科書》

「大学生学びのハンドブック（3訂版）」世界思想社編集部（編）世界思想社、「就職活動ハンドブック」西短進路指導部（学生へ配布済み）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出物は適宜評価・フィードバックをして返却します

《授業の到達目標》

1. 社会人としての在り方、心構えを身に付ける
2. 対人基礎力を身に付ける
3. 対課題発見力を身に付ける
4. 伝える技術（プレゼンテーション）を身に付ける

《成績評価基準》

1. 授業の内容を踏まえ、かつ与えられる課題を通して、進路選択に関連する取り組みを実践できる
2. 課題を設定し、それを解決するための取り組みを行い、人に分かりやすく伝えることができる
3. 授業内で取り組む一般常識問題について6割以上解答できる

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート %
 課題 80% 実技 %
 授業の取組 20%
 その他 () %

《参考図書》

適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、年間計画作成	2年次の過ごし方について考え、まとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
2	進路支援 第2回就職模擬試験	一般常識問題について勉強する(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
3	進路支援 ビジネスマナー	ビジネスマナーについて調べる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
4	進路支援 実習報告会	興味のある職業についてまとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
5	進路支援 OBOGへのキャリアインタビュー1	興味のある職業についてまとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
6	進路支援 OBOGへのキャリアインタビュー2	興味のある職業についてまとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
7	進路支援 就活座談会、一般常識問題	自身の就活状況をまとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
8	個人ワーク、一般常識問題	自身の問題意識を明確にし、興味のあるテーマを考える(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
9	個人ワーク、一般常識問題	自身の問題意識を明確にし、興味のあるテーマを考える(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
10	個人ワーク、一般常識問題	自身の問題意識を明確にし、興味のあるテーマを考える(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
11	プレゼンテーション	発表資料の作成準備と発表練習を行う(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
12	個人ワーク、一般常識問題	自身の問題意識を明確にし、興味のあるテーマを考える(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
13	個人ワーク、一般常識確認	自身の問題意識を明確にし、興味のあるテーマを考える(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
14	個人ワーク、一般常識確認テスト	自身の問題意識を明確にし、興味のあるテーマを考える(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
15	プレゼンテーション	発表資料の作成準備と発表練習を行う(30分)・今回の授業内容の復習(30分)

《専門科目》

科目名	スポーツ心理学				
担当者氏名	小川 茜				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

運動指導の現場では、効率的な運動学習、競技力向上のためのメンタルトレーニング、健康の維持増進のための心理的支援など、多岐にわたって心理学的知識が必要とされる。本授業ではそれらの基礎知識を得るために、講義に加え、質問紙やメンタルトレーニングの実践、議論を通じて、運動現場における多角的な心理的支援について考える。

《教科書》

日本スポーツ協会テキスト
トレーニング指導者テキスト
健康運動実践指導者養成用テキスト

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出物は評価・フィードバックをした上でその後の授業で返却します

《授業の到達目標》

1. 講義、実践、議論を通じて、スポーツ心理学に関する基礎知識を説明できる

《成績評価基準》

1. 試験において、授業で説明した内容を6割以上解答できる
2. 授業内のディスカッションや発表、ワークにおいて調査結果や自身の意見を分かりやすく伝えられる
3. 与えられる課題に期日通りに取り組むことができる

《成績評価の方法》

筆記試験 60% レポート %
課題 % 実技 %
授業の取組 40%
その他 () %

《参考図書》

「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信(著)大修館書店、その他適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツ心理学とは	自身の経験を振り返り、スポーツ現場において必要な心理学的知識は何かを考え、まとめる(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
2	運動と認知	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
3	運動学習	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
4	スポーツにおける動機づけ	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
5	スキルに応じたスポーツ指導	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
6	運動嫌いとその指導法	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
7	スポーツとパーソナリティ形成	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
8	発達に応じたスポーツ指導	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
9	行動や性格の特徴に応じた運動指導	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
10	運動実践と環境	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
11	運動と高齢者心理	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
12	指導者のメンタルマネジメント	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
13	指導者のメンタルマネジメント	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
14	コーチングの心理	教科書の該当範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)

《専門科目》

科目名	スポーツ社会学				
担当者氏名	小川 茜				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

スポーツを社会学的視点から捉え、以下のような内容を講義する。社会の中のスポーツ スポーツの概念と歴史 文化としてのスポーツ スポーツ集団 ライフサイクルとスポーツ
 スポーツに関するニュースについて常に興味・関心を持ち自分の意見を持つこと。授業では講義のほかディスカッションや調査発表、資料制作などに取り組む予定である。

《授業の到達目標》

スポーツを社会学的に見る目を養い、スポーツ・健康運動指導者をめざす者として以下のことを説明できる
 スポーツの概念と歴史 スポーツの持つ社会的意義・文化的価値 スポーツ観やスポーツ規範の重要性 スポーツ集団とリーダーシップの在り方 少子高齢社会においてアクティブな生活スタイル構築の必要性

《成績評価の方法》

筆記試験 60% レポート %
 課題 % 実技 %
 授業の取組 40%
 その他 () %

《教科書》

「Reference book」日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

授業内提出物は評価・フィードバックをした上でその後の授業で返却します

《成績評価基準》

1. 試験において、授業で説明した内容を6割以上解答できる
2. 授業内のディスカッションや発表において調査結果や自身の意見を分かりやすく伝えられる

《参考図書》

適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツの社会的アプローチ	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
2	社会の中のスポーツ	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
3	スポーツの概念	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
4	スポーツの歴史	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
5	プレイ論	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
6	スポーツ観	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
7	スポーツ規範	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
8	スポーツマンシップとフェアプレイ	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
9	スポーツマンシップとフェアプレイ	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
10	スポーツ集団	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
11	スポーツにおけるリーダーシップ	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
12	ライフサイクルと生涯スポーツ	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
13	地域におけるスポーツ活動	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
14	スポーツの社会的諸問題	教科書の指定範囲を読む(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する(2時間)・今回の授業内容の復習(2時間)

《専門科目》

科目名	スポーツバイオメカニクス				
担当者氏名	藤木 賢二				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

スポーツバイオメカニクスの概念
 筋肉の収縮メカニズム
 筋出力の特徴とスポーツ種目特性
 運動の力学的法則 歩、走、跳、投、打、泳のバイオメカニクス

《教科書》

スポーツバイオメカニクス入門（金子公宥、杏林書院）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

筆記試験は、次回授業で解説をする。
 ミニッツペーパーは、その授業内に採点及び解説する。

《授業の到達目標》

筋活動のしくみを理解するとともにスポーツ動作のメカニズムを知り、スポーツや運動動作の技術改善や健康運動、スポーツ指導に役立てる知識を修得する。

《成績評価基準》

スポーツ動作における筋活動のメカニズムを理解している。
 スポーツ動作の技術改善や健康運動、スポーツ指導に関する知識を習得している。

《成績評価の方法》

筆記試験 70%
 授業の取組 20%
 その他（ミニッツペーパー） 10%

《参考図書》

公認スポーツ指導者養成テキスト（公財）日本スポーツ協会
 スポーツ動作の科学（深代千之他、東京大学出版会）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツバイオメカニクスの概念	教科書(p11~p15)を読んでおく(2時間) バイオメカニクスの概要についてまとめる(2時間)
2	筋肉の収縮メカニズム	教科書(p16~p18)を読んでおく(2時間) 筋収縮のメカニズムについてまとめる(2時間)
3	筋の活動様式と筋出力	教科書(p19~p21)を読んでおく(2時間) 筋の活動様式についてまとめる(2時間)
4	筋肉の弾性要素と特性	筋の構造を理解しておく(2時間) ストレッチショートニングサイクルについてまとめる(2時間)
5	筋出力とスポーツ種目特性	スポーツ種目に必要な体力要素を調べておく(2時間) スポーツ種目特性についてまとめる(2時間)
6	筋活動の力、速度、パワーの関係	教科書(p21)を読んでおく(2時間) 筋活動の力-速度関係についてまとめる(2時間)
7	力学的法則とヒトの動き	教科書(p34)を読んでおく(2時間) 変位、速度、加速度についてまとめる(2時間)
8	運動の三法則、力と運動方程式	教科書(p35)を読んでおく(2時間) 運動の三法則についてまとめる(2時間)
9	運動量と力積、着地衝撃と緩和法	教科書(p36)を読んでおく(2時間) 衝撃の伝わり方についてまとめる(2時間)
10	身体運動の効率	教科書(p37)を読んでおく(2時間) 力学的仕事、仕事率についてまとめる(2時間)
11	歩、走のバイオメカニクス	教科書(p44~p53)を読んでおく(2時間) 歩、走の力学的エネルギーについてまとめる(2時間)
12	跳ぶバイオメカニクス	教科書(p54~p63)を読んでおく(2時間) バネ作用についてまとめる(2時間)
13	投げる動作と打つ動作のバイオメカニクス	教科書(p64~p77)を読んでおく(2時間) ムチ作用についてまとめる(2時間)
14	素早い運動、空中のボールの空気抵抗	教科書(p78~p79)を読んでおく(2時間) ベルヌーイの定理、マグヌス効果についてまとめる(2時間)
15	泳ぐ動作のバイオメカニクス	教科書(p82~p87)を読んでおく(2時間) 水の抵抗と泳スピードについてまとめる(2時間)

《専門科目》

科目名	スポーツと法				
担当者氏名	岸田 優				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

スポーツ指導者が負う可能性のある法的責任について説明を聞き、具体的な事例に基づいて理解を深める。スポーツに関する人権問題や紛争解決方法について理解する。

《教科書》

『リファレンスブック』（日本スポーツ協会）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

毎回のコメントページにコメントを付して返却する。

《授業の到達目標》

スポーツの指導を行う者(指導者、インストラクター)が配慮しなければならない法的知識を、過去の事故例に基づいて理解することができる。

スポーツ事故の予防、事故が起きた時の対処、危機管理について具体的に行動できる。

スポーツ指導に携わる者として、常に人権を意識した行動ができる。

《成績評価基準》

到達目標 ～ の達成度を、期末試験(45%)および毎回課すコメントペーパー(45%)で測定する。

《成績評価の方法》

筆記試験 45% レポート %

課題 45% 実技 %

授業の取組 5%

その他 () %

《参考図書》

日本スポーツ法学会『標準テキスト スポーツ法学 第3版』（イデール研究社）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツと法の関係	【予習】教科書を熟読し概要を整理する(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
2	指導者の法的責任 (刑事・民事・行政)	【予習】教科書と参考資料を熟読し概要を整理する(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
3	民事責任(1) ～不法行為責任	【予習】教科書と参考資料を熟読し概要を整理する(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
4	民事責任(2) ～不法行為・契約責任	【予習】教科書と参考資料を熟読し概要を整理する(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
5	【スポーツ事故判例】 ママさんバレー練習事故	【予習】参考資料(判決文)を熟読し概要を整理する(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
6	【スポーツ事故判例】 法的責任・予防と対策	【予習】予防策と対応策について考える(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
7	【スポーツ事故判例】 柔道授業中におきた事故	【予習】参考資料(判決文)を熟読し概要を整理する(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
8	【スポーツ事故判例】 法的責任・予防と対策	【予習】予防策と対応策について考える(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
9	【スポーツ事故判例】 スポーツジムでの事故	【予習】参考資料(判決文)を熟読し概要を整理する(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
10	スポーツ事故とリスクマ ネジメント	【予習】スポーツ事故判例 ～ の判決文を熟読する(3時間)。 【復習】リスクマネジメントの方法について調べる(3時間)。
11	暴力とハラスメント	【予習】教科書と参考資料を熟読し概要を整理する(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
12	スポーツのインテグリティ	【予習】教科書と参考資料を熟読し概要を整理する(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
13	スポーツ仲裁期間	【予習】教科書と参考資料を熟読し概要を整理する(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
14	スポーツ基本法とスポーツ 権	【予習】教科書と参考資料を熟読し概要を整理する(2時間)。 【復習】講義内容を振り返り、新しく理解したことを確認する(2時間)。
15	まとめ	【予習】これまでの学習内容を振り返る(3時間)。 【復習】理解が不十分な部分を確認し、今後の学習課題を検討する(1時間)。

《専門科目》

科目名	コーチング論				
担当者氏名	坂元 瑞貴				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

トップアスリートを育成・指導するために必要な高度な知識を習得するための授業を行う。

《教科書》

「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

講義終了後にミニッツペーパーの提出を行い、評価・フィードバックをした上で返却します。

《授業の到達目標》

トップアスリートを育成・指導できる指導者に近づくために、以下のことを身につける。

- トップアスリートの育成における指導者の役割
- トップアスリートの育成・強化方法と評価
- チームづくりと運営

《成績評価基準》

1. 指導者の役割を理解し、重要性を説明することができる
2. トップアスリートの育成・強化方法について学び、評価することができる
3. チームづくりと運営方法について説明することができる

《成績評価の方法》

筆記試験 70%
課題 10%
授業の取組 20%

《参考図書》

なし

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	コーチの役割	関わったコーチを思い出し、理想のコーチ像について考える(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
2	トップアスリートを育てるために	教科書の該当項を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
3	トップアスリートを育てるために	教科書の該当項を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
4	トップアスリートの育成・強化の方法と評価	教科書の該当項を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
5	トップアスリートの育成・強化の方法と評価	教科書の該当項を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
6	世界を目指すアスリートの育成・強化の在り方	指導者の役割について考え、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
7	選手と指導者の望ましい関係の構築	教科書の該当項を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
8	ミーティングの方法	ミーティングの必要性について考え、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
9	競技力向上のためのチームマネジメント	チームマネジメントの方法について調べ、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
10	競技力向上のためのチームマネジメント	チームマネジメントの方法について調べ、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
11	スポーツのインテグリティ	教科書の該当項を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
12	競技力向上のための情報とその活用	教科書の該当項を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
13	対象および年齢に応じたコーチング	教科書の該当項を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
14	アンチ・ドーピング	教科書の該当項を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)

《専門科目》

科目名	労働安全衛生法				
担当者氏名	吉田 明文				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

社会保険労務士として労災保険請求の経験および労働衛生コンサルタントとして職長教育・作業主任者、衛生管理者講習等の実務経験に基き、労働安全衛生関係法令の要求事項と事故予防としてのリスクアセスメント、再発防止としてのインシデント報告や労災補償、刑事・民事裁判例などと比較しながら、事例や画像資料を使い説明する。また、内容に関しコミュニケーションを取り理解度を確認しながら進める授業とする。

《授業の到達目標》

- ・労働災害の防止措置として労働安全衛生関係法令に従い事業者がやるべきことを列挙し説明することができる
- ・労働災害が発生した場合に事業者が被る影響について予測し、災害防止対策について説明することができる
- ・労災の被災者にどのような補償があるか、国の制度および民事訴訟の例を挙げて具体的に述べるができる

《成績評価の方法》

復習課題：30点（3点×10）
 中間レポート：20点
 筆記試験：50点

《教科書》

「安全衛生推進者必携」中央労働災害防止協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出課題については、2週間以内にコメントをつけて返却する

《成績評価基準》

- ・法的要求事項を満たすために、事業者が行う事故防止策について具体的に列挙し説明できたか
- ・事業者が被る影響をどう予測し、対策について説明できたか
- ・労災の被災者に国の補償および裁判における損害賠償がどうかについて例を挙げて具体的に述べるできたか

《参考図書》

適宜紹介します

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
2	労働災害の定義と防止・補償	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
3	労働安全衛生法の概要	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
4	労働者の危険又は健康障害を防止するための措置	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
5	機械等並びに危険物及び有害物に関する規制1	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
6	機械等並びに危険物及び有害物に関する規制2	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
7	安全衛生教育と就業制限	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
8	労働基準法上の就業制限	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
9	健康の保持増進ための措置	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
10	快適な職場環境形成のための措置	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
11	作業環境管理・健康管理	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
12	労働安全衛生法の違反と刑事責任	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
13	安全衛生法と労災補償1	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
14	労働安全衛生法と労災補償2	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)
15	総括：全体のポイント説明と質疑応答	適宜示します(1時間) 復習課題(1時間)

《専門科目》

科目名	公衆衛生学				
担当者氏名	中尾 由美				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

病院の外にある施設や関係機関、つまり地域や職域における保健衛生福祉のしくみや制度を教科書を用いて学ぶ。

《教科書》

わかりやすい公衆衛生学（最新版）：清水忠彦、佐藤拓代：ヌーベルヒロカワ

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

試験のフィードバックは講評する。
学習課題は次週に返却し、提出状況や内容を確認する。

《授業の到達目標》

公衆衛生学とは組織、集団（地域）社会を通して、疾病を予防し、身体的、精神的、社会的機能の増進を図る科学であり、技術である。国内における基本的な公衆衛生対策や施策について理解することができる。

《成績評価基準》

筆記試験は40%、課題は30%、授業の取り組み30%で評価する。

《成績評価の方法》

筆記試験 40%
課題 30%
授業の取組 30%

《参考図書》

適宜紹介します

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	公衆衛生とは	シラバスを熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
2	健康と環境・疫学的方法	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
3	健康の指標	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
4	感染症とその予防	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
5	食品保健と栄養	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
6	生活環境の保全	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
7	医療の制度	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
8	地域保健活動	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
9	母子保健・学校保健	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
10	生活習慣病・難病	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
11	健康教育とヘルスプロモーション	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
12	精神保健福祉	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
13	産業保健	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
14	まとめ	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
15	総括	次回の授業内容について教科書を15ページ分熟読する。(2時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)

《専門科目》

科目名	幼児体育論				
担当者氏名	小川 茜				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

子どもへの運動指導や発達に関する講義を行います。多様な視点から発育段階に応じた運動指導のあり方を考え、座学だけでなく議論や指導実践を行うこともあります。また子ども向けイベントにも関わります。

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出物は評価・フィードバックをした上で返却します

《授業の到達目標》

1. 幼児期における心身の発達および運動が与える影響についての基礎知識を説明できる

《成績評価基準》

1. 試験において、授業で説明した内容を6割以上理解している
2. 提出物を期限内に提出する
3. イベント参加者に対して心身の安全や発達に配慮したコミュニケーションや運動指導ができる

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート %
 課題 50% 実技 225%
 授業の取組 25%
 その他 () %

《参考図書》

公認ジュニアスポーツ指導員テキスト、日本スポーツ教員リファレンスブック

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	子どもにおける運動、スポーツの意義・価値	目指すべき幼児体育指導者の条件を考え、まとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
2	子どもを取り巻く環境、体力の現状と課題	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
3	指導実践	子どもの発達や運動遊びに関する情報を調べる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
4	子どもの身体活動ガイドライン	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
5	子どものスポーツ指導における現状と課題	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
6	指導実践	子どもの発達や運動遊びに関する情報を調べる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
7	ジュニアスポーツ指導員の役割	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
8	コミュニケーションスキル	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
9	よい指導者としての観点	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
10	指導の留意点	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
11	指導実践	子どもの発達や運動遊びに関する情報を調べる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
12	プログラム作成時のポイント	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
13	安全管理上の配慮事項	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
14	コーチングの実践事例、ケーススタディ	教科書・参考資料の該当範囲や教員が配布する資料を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
15	指導実践	子どもの発達や運動遊びに関する情報を調べる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)

《専門科目》

科目名	幼児体育演習				
担当者氏名	橋本 潔				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

幼児体育企業で長年幼児体育指導に携わる教員が、各運動の補助の仕方や具体的な指導方法について実践を通して指導する。幼児が運動嫌いにならない様に、意欲を持って運動に取り組み、友だちとの関わりを通しての運動遊びを行う。マット・とび箱・鉄棒・平均台・なわ・ボールなどの器具・手具を使用したリ、グループでのゲームを行い、楽しんで運動あそびを体験する事により、幼児体育の指導者としてのスキルを身につける。

《授業の到達目標》

現代社会では専門スポーツへの取り組みの低年齢化が進んでいる。しかし幼児期には神経系の急激な発達により、運動コントロール能力が著しい発達を示す為、適切な運動経験をする事が望ましいと言える。それを踏まえた上で、幼児期にはどのような運動をしたら良いのか、将来指導者になる立場での幼児への言葉かけ、言葉使い、運動補助の仕方などを運動あそびを通して習得できるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験 0 %
 レポート 0 %
 課題 0 %
 実技 60 %
 授業の取組 40 % その他 () %

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

試験、レポート提出なし
 ・授業にて内容説明

《成績評価基準》

器具・手具運動の技能習得状況、授業態度

《参考図書》

公認ジュニアスポーツ
 指導員養成テキスト(理論・実技編)日本体育協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	予習：授業内容の把握と準備・30分 復習：授業内容の整理・30分
2	準備運動、集合遊び	予習：次回授業内容の把握と準備・30分 復習： "
3	即時反応的運動遊び	予習： " 復習： "
4	基本運動	予習： " 復習： "
5	マットを使用した運動遊び及び補助法	予習： " 復習： "
6	マットを使用した運動遊びの展開及び補助法	予習： " 復習： "
7	とび箱を使用した運動遊び及び補助法	予習： " 復習： "
8	とび箱を使用した運動遊びの展開及び補助法	予習： " 復習： "
9	鉄棒・平均台を使用した運動遊び	予習： " 復習： "
10	ボールを使用した運動遊び	予習： " 復習： "
11	なわを使用した運動遊び	予習： " 復習： "
12	マット運動の技能習得及び補助法	予習： " 復習： "
13	とび箱・鉄棒運動の技能習得及び補助法	予習： " 復習： "
14	器具・手具運動の子どものつまずきの解決	予習： " 復習： "
15	運動遊びを考えよう！個別・集団ゲーム	予習： " 復習： "

《専門科目》

科目名	子どもの身体表現				
担当者氏名	石見 香				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

- ・本授業で運動遊びや様々な表現方法を体験していき、将来指導者として実践できるように自分で創造する力を身につける。
- ・身体作り

《教科書》

使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

講評をおこなう。

《授業の到達目標》

- ・様々な運動遊びを体験し、更に工夫、創造できる。
- ・身体のみならず、音楽、手具、道具、器具などあらゆるものを活用しながら自由に表現していく。

《成績評価基準》

実技50% 授業の取組50%

《成績評価の方法》

筆記試験	%	レポート	%
課題	%	実技	50 %
授業の取組	50 %	その他 ()	%

《参考図書》

適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	予習：講義要項を読んでおく(30分) 復習：授業の復習(30分)
2	身体作り	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
3	身体表現	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
4	身体表現	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
5	手具を使った身体表現	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
6	手具を使った身体表現	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
7	道具を使った身体表現	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
8	道具を使った身体表現	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
9	身体作り	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
10	音楽を使った身体表現	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
11	音楽を使った身体表現	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
12	身体作り	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
13	器具を使った身体表現	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
14	器具を使った身体表現	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
15	まとめ	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)

《専門科目》

科目名	医学一般				
担当者氏名	重森 裕				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

戦後から現在に至る、厚労省の健康管理対策を世界の施策と比較しながら学び、近年問題となっている高齢化社会やメタボリックシンドロームを理解し、スポーツ運動実践指導者・第一種衛生管理者としてその対策を学習する。3大成人病のがん、心疾患、脳血管疾患に始まり、生活習慣病の各疾患を学び、内臓脂肪が原因であるメタボリックシンドロームを理解し、実際の運動目標数値の根拠や運動による予防効果を医学的に学ぶ。

《授業の到達目標》

健康管理について戦後から現代にいたるまでその変遷を把握する

健康と運動の関連性を医学的に理解を深め、スポーツ運動実践指導者・第一種衛生管理者としての役割を自覚する

生活習慣病からの流れを含めてメタボリックシンドロームとその予防について理解する

《成績評価の方法》

筆記試験 80 % レポート 10 %
 課題 5 % 実技 5 %
 授業の取組 % その他 () %

《教科書》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」(公財)健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

試験内容に対する解説の時間を設ける。

《成績評価基準》

本講義は、「健康運動実践指導者養成」を目的としており、成績評価は同指導者として合格するまたは、評価される知識レベルへの養成を目的としている。そのために、成績評価は、同指導者として認定されるレベルを合格基準として参考する。

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	健康管理1	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
2	健康管理2	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
3	健康と運動1	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
4	健康と運動2	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
5	健康と肥満1	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
6	健康と肥満2	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
7	生活習慣病1	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
8	生活習慣病2	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
9	メタボリックシンドローム1	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
10	メタボリックシンドローム2	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
11	メディカルチェック	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
12	メンタルヘルス対策	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
13	健康の保持増進対策	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
14	救急処置	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)
15	まとめ	予習：・指定されたテキストの箇所を熟読する(2時間) 復習：配布プリントで授業内容の整理する(2時間)

《専門科目》

科目名	運動処方概論				
担当者氏名	星子 和夫				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

スポーツクラブやフィットネスクラブ、健康増進施設、スイミングクラブなどのスポーツ・運動施設で実施されている疾病の予防・改善あるいは健康の維持、体力の向上を目的としたトレーニングプログラムや日常生活の身近な運動をとりあげ、運動処方の基礎について学習する。なお、この科目は、「第一種衛生管理者」資格の指定科目である。

《授業の到達目標》

健康体力の保持増進をふまえ、運動の指導者として知っておくべき運動の必要性や運動の効果、疾病の内容を理解するとともに個々人にあった運動プログラムの作成について学習します。

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《教科書》

適宜、プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

10点満点の小テストを10回実施し、合計点数を評価とする。なお、小テスト実施の次回講義において解答および解説を行う。また、最終講義でも解答および解説を行い、講評する。

《成績評価基準》

健康の定義と体力の概念を理解しながら、運動・スポーツの指導者として知っておくべき運動の必要性や効果、疾病の内容を理解するとともに個々人にあった運動プログラムの作成についてまとめることができる。

《参考図書》

「運動療法と運動処方第2版」佐藤編、文光堂

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、健康の定義と体力の概念	健康とは何か、体力に関し、考察しておくこと(1時間) 今回の学習内容を復習しておくこと(3時間)
2	運動の効果	運動は何を目的に行い、その効果はどのようなものかを考えておくこと(2時間) 目的に応じた運動の効果を復習しておくこと(2時間)
3	運動処方の概念	健康体力の維持増進のための運動プログラムの概要をまとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
4	運動処方の手順1 問診・生理学的検査	運動実施前に何を検査するべきかを考えておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
5	運動処方の手順2 医学的検査、体力テスト	運動実施前のメディカルチェックの内容を考察しておくこと(2時間) 小テストのためにこれまでの内容を復習しておくこと(3時間)
6	トレーニングの原則	トレーニング効果を上げる原則を覚えておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
7	運動の種類と量(強度・時間・頻度など)	過去のスポーツ経験から運動・トレーニングに必要な条件を覚えておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
8	健康のための運動所要量	どれくらいの運動をすると健康が維持できるのかを考えておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
9	対象別運動処方1	生活習慣病の罹患に対する運動の処方を覚えておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
10	対象別運動処方2	生活習慣病の罹患に対する運動の処方を覚えておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
11	対象別運動処方3	生活習慣病の罹患に対する運動の処方を覚えておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
12	運動処方箋の作り方1	生活習慣病の罹患に対する運動の注意事項を覚えておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
13	運動処方箋の作り方2	生活習慣病の罹患に対する運動の注意事項を覚えておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
14	運動処方箋の作り方3	生活習慣病の罹患に対する運動の注意事項を覚えておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
15	まとめ	これまでの内容を予習しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)

《専門科目》

科目名	測定評価法				
担当者氏名	坂元 瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

形態や体力測定理論と測定結果の評価方法を習得し、健康づくり運動やトレーニングに活用できるようにする。
 形態・体脂肪量の測定原理および測定方法を理解する。
 有酸素性および無酸素性能力を表わす指標とその測定法を理解する。
 新体力テストの各項目と体力要素との関連を理解する。

《教科書》

使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

形態・体力テスト測定への参加姿勢や測定方法について、講評の時間を設けます。

《授業の到達目標》

1. 体力テストを実施できる。
2. 体力テストの結果を評価し、効果的な運動処方ができる。
3. 有酸素性及び無酸素性能力を表す指標について説明できる。

《成績評価基準》

1. 体力テストの測定方法を説明し、実施することができる。
2. データの評価方法を理解し、活用することができる。
3. 有酸素性および無酸素性能力を表わす指標とその測定法を理解し、説明することができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 70%
 授業の取組 30%

《参考図書》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」(公財)健康・体力づくり事業財団

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス 体力の意義と目的	体力要素について復習する(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
2	形態の測定と評価	形態の測定方法について調べて、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
3	体脂肪の測定と評価	体脂肪の測定方法について調べて、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
4	有酸素性・無酸素性能力の測定と評価	有酸素性・無酸素性能力について調べて、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
5	健康体力の測定・評価 全身持久力の測定・評価	全身持久力について調べて、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
6	筋力の測定・評価	筋力の測定方法について調べて、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
7	基礎的運動要素の測定・評価	基礎的運動要素について調べて、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
8	新体力テスト (20~64歳対象)	新体力テストの項目について調べて、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
9	新体力テスト (65~79歳対象)	新体力テストの項目について調べて、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
10	トレーニング効果の測定と評価の実際	体力測定方法についてまとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
11	トレーニング効果の測定と評価の実際	体力測定方法についてまとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
12	トレーニング効果の測定と評価の実際	体力測定方法についてまとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
13	測定データの活用とフィードバックの実際	活用方法について考え、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
14	測定データの活用とフィードバックの実際	活用方法について考え、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)

《専門科目》

科目名	コンディショニング演習				
担当者氏名	大村 詠一				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

コンディショニングの基本となるストレッチおよびトレーニングの知識を学び、指導実践につなげていく。

《教科書》

ストレッチングエクササイズ指導理論 / Jafa 出版

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

希望があれば解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》

安全で効果的なスポーツ指導が行えるよう、指導者に必要な基礎的・基本的知識を身につけ、コンディショニングの実践能力を養う。また、GFI 資格の対応科目であるため、GFI 資格試験の合格を目指す。

《成績評価基準》

受講態度・積極性45%、指導能力55%

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート %
 課題 % 実技 %
 授業の取組 45 % その他 () 55 %

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	予習：講義要項を読んでおく(30分) 復習：授業の復習(30分)
2	コンディショニングの基礎知識	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
3	ストレッチングの目的と留意点	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
4	ストレッチングの基本の動き	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
5	ストレッチングのプログラミング	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
6	ストレッチングのプログラミング	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
7	ストレッチングの指導実践	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
8	ストレッチングの指導実践	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
9	トレーニングの基礎知識	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
10	ウォーミングアップとクーリングダウンの留意点	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
11	トレーニング効果を高めるプログラミングと実践	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
12	トレーニング効果を高めるプログラミングと実践	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
13	GFI 試験対策	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
14	GFI 試験対策	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
15	GFI 試験対策	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)

《専門科目》

科目名	グループフィットネス指導演習				
担当者氏名	高木 富士男				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

本演習は公益社団法人日本フィットネス協会認定資格である「グループフィットネスインストラクター（GFI）」の筆記試験対策講座です。資格取得を希望する学生は必ず受講してください。筆記試験対策では、「フィットネス基礎理論」、「グループエクササイズ指導理論」の内容をに沿って、これまで各講義で学習してきた内容の復習に取り組みます。また、練習問題や模擬問題で達成度を確認し、認定試験の合格を目指します。

《授業の到達目標》

1. グループフィットネスインストラクターとして、最低限の基礎理論が説明できる
2. グループフィットネスインストラクターとして、集団を指導する意義・理論について説明できる

《成績評価の方法》

課題 50 %
 授業の取組 30 %
 その他（小テスト） 20 %

《教科書》

「GFI のためのフィットネス基礎理論」日本フィットネス協会発行、「GFI のためのグループエクササイズ指導理論」日本フィットネス協会発行

《課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法》

課題・小テストはその都度、解説の時間を設けます。

《成績評価基準》

課題では、資格対策への取り組みを評価します（50%）。授業の取り組みでは、受講中の態度や発言を評価します（30%）。小テストでは、模擬問題を行い、出来栄を評価します（20%）。

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス・フィットネス概論	予習：フィットネス基礎理論P2～16を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
2	復習（解剖学、運動生理学）	予習：フィットネス基礎理論 P18～75を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
3	復習（解剖学、運動生理学）	予習：フィットネス基礎理論 P18～75を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
4	復習（体力学、トレーニング科学、運動処方）	予習：フィットネス基礎理論 P78～97を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
5	復習（栄養学、心理学、施設管理等）	予習：フィットネス基礎理論P100～15 を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
6	復習 まとめ	予習：フィットネス基礎理論を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
7	グループエクササイズについて	予習：グループエクササイズ指導理論P2～36を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
8	グループエクササイズについて	予習：グループエクササイズ指導理論 P38～64を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
9	グループエクササイズについて まとめ	予習：グループエクササイズ指導理論を熟読し整理しておくこと（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
10	練習問題	予習：テキストを読み、疑問点をまとめる（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
11	練習問題	予習：テキストを読み、疑問点をまとめる（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
12	模擬問題	予習：テキストを読み、疑問点をまとめる（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
13	模擬問題	予習：テキストを読み、疑問点をまとめる（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
14	模擬問題	予習：テキストを読み、疑問点をまとめる（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）
15	まとめ	予習：テキストを読み、疑問点をまとめる（90分） 復習：今回の授業内容の復習（90分）

《専門科目》

科目名	エアロビックダンス				
担当者氏名	大村 詠一				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

講師の指示に合わせて、エアロビックダンスのレッスンを体験し、基本的なステップを覚える。レッスン前後の準備運動、整理運動、ストレッチなどについて学習し、指導する際の注意点を身につける。グループに分かれて、基本的なステップを用いたプログラムを作成、発表する。

《教科書》

「健康運動実践指導者用テキスト」

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

希望があれば解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》

・エアロビックダンスとはどういうものであるか体験を通して学習させる。
 ・体を動かすことの楽しさやフィットネスエクササイズとして様々な運動形態(エアロビックダンス・ストレッチ・筋コン)があることを知り、フィットネスの理解を深めさせる。

《成績評価基準》

実技試験85%、受講態度15%

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート %
 課題 % 実技 85 %
 授業の取組 15 % その他 () %

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	初インテ-ジョン、エアロビックダンスの特性と効果	予習：講義要項を読んでおく(30分) 復習：授業の復習(30分)
2	エアロビックダンス レッスン(Low~HIGH)	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
3	エアロビックダンスの運動強度と心拍数	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
4	性・年齢・体力に応じた運動強度とその調整法	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
5	エアロビックダンスの音楽と用具	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
6	対象に応じた選曲・BPMを理解する	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
7	特徴と注意点を意識した動きについて	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
8	W-up について	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
9	C-down について	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
10	ストレッチ(上半身)	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
11	ストレッチ(下半身)	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
12	安全に対する注意、プログラム練習(グループ別)	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
13	リズム取りと指示の出し方、プログラム練習(グループ別)	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
14	指導法と注意事項、プログラム発表(グループ別)	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)
15	まとめ	予習：授業の予習(30分) 復習：授業の復習(30分)

《専門科目》

科目名	障害者スポーツ演習				
担当者氏名	高木 富士男				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

障がい者スポーツについて、障がいに応じたルールと用具の工夫を理解したうえで実践していく。また、指導方法と戦術をチーム内で考えてゲームを楽しむ。
学生同士で指導者役と受講者役に分かれスポーツ指導を実際に行う。

《教科書》

プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

受講学生の課題をまとめ、次回授業で解説する。

《授業の到達目標》

- ・障がい者スポーツのルールを他者に説明することができる。
- ・障がい者スポーツを他者に指導することができる。
- ・障がいに応じてルールや用具を創造することができる。

《成績評価基準》

受講態度・積極性30%、指導実践30%、課題提出30%（指導実践計画案15%、指導実践の自己評価15%）、レポート提出10%

《成績評価の方法》

レポート	10 %
課題	30 %
実技	30 %
授業の取組	30 %

《参考図書》

適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、パラリンピック競技体験1	予習：パラリンピック競技について調べる(60分) 復習：授業の振り返り(30分)
2	パラリンピック競技体験2	予習：パラリンピック競技について調べる(60分) 復習：授業の振り返り(30分)
3	視覚障がい者のスポーツ実践1	予習：視覚障がい者のスポーツを調べる(30分) 復習：授業の振り返り(30分)
4	視覚障がい者のスポーツ実践2	予習：視覚障がい者のスポーツを調べる(30分) 復習：授業の振り返り(30分)
5	視覚障がい者のスポーツ創造と指導実践1	予習：指導実践計画案の作成(60分) 復習：授業の振り返り(30分)
6	視覚障がい者のスポーツ創造と指導実践2	予習：指導実践計画案の作成(60分) 復習：授業の振り返り(30分)
7	肢体不自由者のスポーツ実践1	予習：肢体不自由者のスポーツを調べる(30分) 復習：授業の振り返り(30分)
8	肢体不自由者のスポーツ実践2	予習：肢体不自由者のスポーツを調べる(30分) 復習：授業の振り返り(30分)
9	肢体不自由者のスポーツ創造と指導実践1	予習：指導実践計画案の作成(60分) 復習：授業の振り返り(30分)
10	肢体不自由者のスポーツ創造と指導実践2	予習：指導実践計画案の作成(60分) 復習：授業の振り返り(30分)
11	知的障がい者のスポーツ実践1	予習：知的障がい者のスポーツを調べる(30分) 復習：授業の振り返り(30分)
12	知的障がい者のスポーツ実践2	予習：知的障がい者のスポーツを調べる(30分) 復習：授業の振り返り(30分)
13	知的障がい者のスポーツ創造と指導実践1	予習：指導実践計画案の作成(60分) 復習：授業の振り返り(30分)
14	知的障がい者のスポーツ創造と指導実践2	予習：指導実践計画案の作成(60分) 復習：授業の振り返り(30分)
15	障がい者スポーツの創造	予習：障がい者スポーツを創造する(60分) 復習：授業の振り返り(30分)

《専門科目》

科目名	障害者福祉論				
担当者氏名	東高西 謡平				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。				

《授業の概要》

障害者福祉の基礎知識（考え方、概念、史的展開など）を理解し、基本的な考え方を学ぶ。
 障害者施策、サービス体系、障害者総合支援法について学び、障害のある人が住み慣れた地域で生活していくための仕組み、支援方法について学習する。

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

試験のフィードバックとして、講評及び解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》

障害者福祉の考え方、障害の概念と障害者の実態について説明することができる。

特別支援教育の現状を理解し課題について述べることができる。

障害者総合支援法の基本理念、サービス体系などについて理解し、当事者が抱える問題の軽減、解決に向けた取り組みについて説明することができる。

《成績評価基準》

筆記試験（70%）、受講態度（30%）により評価する。

《成績評価の方法》

筆記試験 70%

授業の取組 30%

《参考図書》

適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	考え方（ノーマライゼーションの実現）	予習：ノーマライゼーションについて調べよう（2時間） 復習：ノーマライゼーションの理念等の整理（2時間）
2	考え方（リハビリテーションの追求）	予習：リハビリテーションについて調べよう（2時間） 復習：リハビリテーションの定義等の整理（2時間）
3	障害の概念と障害者の実態（障害の概念）	予習：障害の概念について調べよう（2時間） 復習：障害の概念・3つのレベル等の整理（2時間）
4	障害の概念と障害者の実態（障害者の実態）	予習：福岡県の障害者の実態について調べよう（2時間） 復習：福岡県の実態の整理（2時間）
5	障害者福祉の史的展開（国際的動向）	予習：国際的動向について調べよう（2時間） 復習：国際的動向の整理（2時間）
6	障害者福祉の史的展開（日本の動向）	予習：日本の動向について調べよう（2時間） 復習：日本の動向の整理（2時間）
7	障害者施策の体系（障害者基本法）	予習：障害者基本法について調べよう（2時間） 復習：障害者基本法の整理（2時間）
8	障害者施策の体系（障害者基本計画）	予習：障害者基本計画について調べよう（2時間） 復習：障害者基本計画の整理（2時間）
9	サービス体系（障害者福祉の法・行政）	予習：身体障害者福祉法等について調べよう（2時間） 復習：身体障害者福祉法等の整理（2時間）
10	サービス体系（身体・障害児）	予習：サービス体系について調べよう（2時間） 復習：サービス体系の整理（2時間）
11	サービス体系（知的・精神）	予習：サービス体系について調べよう（2時間） 復習：サービス体系の整理（2時間）
12	障害者福祉の関連分野（保健・医療・教育）	予習：特別支援教育について調べよう（2時間） 復習：保健・医療・教育の整理（2時間）
13	障害者理解の促進とボランティア活動の推進	予習：ボランティアについて調べよう（2時間） 復習：ボランティア活動の整理（2時間）
14	障害者総合支援法	予習：障害者総合支援法について調べよう（2時間） 復習：障害者総合支援法のまとめ（2時間）
15	まとめ	予習：自分ができることについて考えよう（2時間） 復習：今からまとめられることをまとめる（2時間）

《専門科目》

科目名	アクアエクササイズ				
担当者氏名	星子 和夫				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

運動前・中・後の心拍数を確認することはもちろん、水中運動での特に水中ウォーキングを通し、水抵抗を感じながら運動強度を変化させる。一方、水泳運動では浮き身にはじまり、蹴伸び、クロール泳の四肢・下肢の動かし方、呼吸の仕方を学習する。その他泳法も体験学習する。

水上安全での救助法につながる泳法と心肺蘇生法を実践する。

《教科書》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」(公財)健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

レポート課題は2週間以内にコメントをつけて返却します。

《授業の到達目標》

水泳水中運動を実践しながら、水の特性を体感できる。水中運動では、運動強度の変化による心拍数との関係を習得・理解できる。また、水泳運動では、指導上の注意点、プールにおける衛生面や安全面について理解する。

《成績評価基準》

実技試験では、水中運動、水泳(クロール泳、背泳ぎ、横泳ぎ)の出来栄や理解度を総合的に評価します(40%)。また、水泳・水中運動の特性や効果についてのレポートを課し、理解度を評価します(30%)。その他授業への参加状況、取り組みの様子をみて総合的に評価します(30%)

《成績評価の方法》

レポート 30%

実技 40%

授業の取組 30%

《参考図書》

「AQWBI・AQWI・AQDBI・AQDI のためのアクアエクササイズ指導理論」(公財)日本フィットネス協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、水泳の特性について	今回の授業内容の復習(1時間)
2	現場における心肺蘇生法	心肺蘇生法についてまとめる(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
3	現場における心肺蘇生法	心肺蘇生法についてまとめ、振り返り授業に臨む準備をする(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
4	水泳運動(浮き身、蹴伸び、クロール)	浮力、揚力、抵抗、推進力についてまとめる(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
5	水泳運動(クロール)	クロール泳についてまとめる、動画を確認しイメージする(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
6	水中運動、水泳運動(クロール、背泳ぎ)	背泳ぎについてまとめる、動画を確認しイメージする(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
7	日本泳法(横泳ぎ)	日本泳法(横泳ぎ)についてまとめる、動画を確認しイメージする(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
8	日本泳法(横泳ぎ)	日本泳法(横泳ぎ)についてまとめる、動画を確認しイメージする(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
9	現場における心肺蘇生法	心肺蘇生法について振り返り事故に対する準備をする(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
10	水中運動、水泳運動(クロール、背泳ぎ)	クロール泳・背泳ぎの課題練習を行う(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
11	水中運動、水泳運動復習	水中での運動前・後の身体変化についてまとめる(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
12	水中運動の基礎復習、指導実践	5分程度の水中運動を考え練習する(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
13	指導実践	5分程度の水中運動を考え練習する(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
14	指導実践	水中運動を組み合わせ10～15分程度のメニューを考えておく(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
15	まとめ	水中運動、クロール泳、背泳ぎ、横泳ぎを練習しておくこと(1時間) これまでの授業内容の復習(1時間)

《専門科目》

科目名	水泳コーチ法実習				
担当者氏名	星子 和夫				
授業方法	実技	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。				

《授業の概要》

指導者として必要な自らの泳ぎの表現・展示力を向上させるために4泳法であるクロール、背泳ぎ、バタフライ、平泳ぎの技術修得に取り組み、それぞれのスタート・ターンと、個人メドレーへも展開し完成させる。また、速く泳ぐための能力を養い、横泳ぎや潜行の技術を実践しながら修得する。さらに、総合的に競泳のトレーニングを実践する。なお、この科目は水泳コーチ3資格の指定科目である。

《授業の到達目標》

水泳コーチは、水泳（競泳）選手を育てる指導者として自らの泳ぎを表現する実践力が求められる。また、水泳コーチ3の資格取得のための評価基準があるために、次の泳力を身につける。クロール、背泳ぎ、バタフライ、平泳ぎの4泳法の技術修得と個人メドレーの完成、速く泳ぐ能力の習得、横泳ぎや潜行の技術を修得することができる。

《成績評価の方法》

実技 80%
授業の取組 20%

《教科書》

「水泳コーチ教本」（公財）日本水泳連盟

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

競泳競技規則に則った泳法になっているか常に指摘し、併せて記録を短縮できるコツを指導の中で振り返る。

《成績評価基準》

100m個人メドレーで男子は1分40秒以内、女子は1分50秒以内
50m速泳で男子は45秒以内、女子は50秒以内
25m潜行、25m横泳ぎを目安に総合的に評価する。

《参考図書》

「競泳競技規則競技役員の手引き」（公財）日本水泳連盟

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	クロール1	クロール泳動作を改めて振り返り、見せる泳ぎ方をまとめておくこと(2時間) 今回の学習内容を復習しておくこと(2時間)
2	クロール2	見せる泳ぎを意識しクロール泳の効率的な動作を振り返ってまとめること(2時間) 見せる泳ぎを意識し、速く泳ぐための条件をまとめておくこと(2時間)
3	背泳ぎ1	背泳ぎ動作を改めて振り返り、見せる泳ぎ方をまとめておくこと(2時間) 今回の学習内容を復習しておくこと(2時間)
4	背泳ぎ2	見せる泳ぎを意識し背泳ぎの効率的な動作を振り返ってまとめること(2時間) 見せる泳ぎを意識し、速く泳ぐための条件をまとめておくこと(2時間)
5	バタフライ1	バタフライの泳動作を改めて振り返り、見せる泳ぎ方をまとめておくこと(2時間) 今回の学習内容を復習しておくこと(2時間)
6	バタフライ2	見せる泳ぎを意識しバタフライの効率的な動作を振り返ってまとめること(2時間) 見せる泳ぎを意識し、速く泳ぐための条件をまとめておくこと(2時間)
7	平泳ぎ1	平泳ぎの動作を改めて振り返り、見せる泳ぎ方をまとめておくこと(2時間) 今回の学習内容を復習しておくこと(2時間)
8	平泳ぎ2	見せる泳ぎを意識し平泳ぎの効率的な動作を振り返ってまとめること(2時間) 見せる泳ぎを意識し、速く泳ぐための条件をまとめておくこと(2時間)
9	スタート、ターン、個人メドレー	競泳競技規則に則っているか振り返り、考察しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
10	初心者指導法	初心者に対する指導法の適切な手順を考えておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
11	集団・個人の指導法1	指導された経験を振り返り、集団と個人の指導法をまとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
12	集団・個人の指導法2	指導された経験を振り返り、集団と個人の指導法をまとめておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
13	競泳のトレーニング1、横泳ぎ、潜行	目的に応じたトレーニング内容を考えてまとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
14	競泳のトレーニング2	目的に応じたトレーニング内容を考えてまとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
15	競泳のトレーニング3	目的に応じたトレーニング内容を考えてまとめておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)

《専門科目》

科目名	スポーツ企業実習				
担当者氏名	星子 和夫、高木 富士男、小川 茜、坂元 瑞貴				
授業方法	実習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》

実習期間中で、これまでに学習してきた身体・健康体力づくりの基礎知識やスポーツ・健康の指導技術、健康・安全管理、コミュニケーション能力を駆使し、「支えるスポーツ」を念頭におき、実習後の振り返りを課題にすることができる。なお、この科目は、資格取得のための要件単位となる資格もあるが、実習規定により必修科目の単位未修得者は実習を許可しない。

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

実習の事前指導、実習中における指導担当者、実習ノートを確認しながらその都度、実習に対する態度および指導を行う。

《授業の到達目標》

スポーツ企業の業務内容の実際と企業研究したものとのを比較しまとめることができ、その企業に関わるお客様やスタッフなどとコミュニケーションを図りながら事の解決に取り組み、円滑な実習をすることができる。そのためには、おもてなしの心である「ホスピタリティ」を大切に、お客様やスタッフのニーズに応えるための「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション能力」などを自然体で活用できるようになる。

《成績評価基準》

実習巡回での指導担当者の報告や実習ノートから「ホスピタリティ」、「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション能力」などが自然に活用され養われるようになったか、また、これらが不十分だったとしてもその後の取り組みが適切であったかで判断する。また、実習後の報告内容およびプレゼンテーション能力を加味し評価する。

《成績評価の方法》

課題 20%
 授業の取組 65%
 その他(プレゼンテーション) 15%

《参考図書》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」(公財)健康体力づくり事業財団

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	実習事前指導1および実習手続きについて	企業情報演習をもとに企業実習のあり方をまとめて考察しておく(1時間) より深い理解のために実習の心構えを含め、復習しておくこと(1時間)
2	実習事前指導2	より具体的な実習を遂行するために、与えられた課題を考えておくこと(1時間) 今回の授業で学んだ内容を復習し準備しておくこと(1時間)
3	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。(1時間) その日を振り返り、目標の達成を確認すること。(1時間)
4	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。(1時間) その日を振り返り、目標の達成を確認すること。(1時間)
5	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。(1時間) その日を振り返り、目標の達成を確認すること。(1時間)
6	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。(1時間) その日を振り返り、目標の達成を確認すること。(1時間)
7	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。(1時間) その日を振り返り、目標の達成を確認すること。(1時間)
8	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。(1時間) その日を振り返り、目標の達成を確認すること。(1時間)
9	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。(1時間) その日を振り返り、目標の達成を確認すること。(1時間)
10	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。(1時間) その日を振り返り、目標の達成を確認すること。(1時間)
11	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。(1時間) その日を振り返り、目標の達成を確認すること。(1時間)
12	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。(1時間) その日を振り返り、目標の達成を確認すること。(1時間)
13	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。(1時間) その日を振り返り、目標の達成を確認すること。(1時間)
14	希望した実習先での実習	毎日、目標を掲げそれに対し解決できるように準備しておくこと。(1時間) その日を振り返り、目標の達成を確認すること。(1時間)
15	まとめ	実習の内容をまとめ、実習や将来について考察しておくこと(1時間) この実習で学んだ内容を復習し、報告会に向けてまとめておくこと(1時間)

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	坂元 瑞貴				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年（前期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》

スポーツイベントや指導実践を通して、スポーツに携わる指導者としての基本的な能力や態度の育成を目指します。主に、キッズスポーツのイベント参加や実践を行います。また、資料作成やプレゼンテーションを行い、社会人としてのスキルも身に付けます。

「JFA公認キッズリーダー」を取得済みまたは取得予定である方が望ましい。

《授業の到達目標》

1. スポーツイベントや指導実践を通して、積極性、協働性を身に付ける
2. 様々な場面での指導法について考える力を身に付ける
3. スポーツに携わる人材として、相応しい知識、態度を身に付ける

《成績評価の方法》

課題	20%
実技	30%
授業の取組	50%

《教科書》

使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出課題は評価・フィードバックをした上で返却します。

《成績評価基準》

1. スポーツイベントや指導実践の活動に、積極的かつ主体的に参加することができる
2. 場面に応じた行動や指導を行うことができる
3. プレゼンテーションのスキルを身に付け、コミュニケーションをとることができる

《参考図書》

適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	前期の活動について計画する(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
2	購読	自身の興味のある内容をピックアップする(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
3	資料作成	自身の興味のある内容をピックアップする(1時間) プレゼンテーションの準備(1時間)
4	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
5	指導実践	指導現場での行動や対応について考える(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
6	指導案作成・模擬指導	必要な情報を集める(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
7	指導実践	指導現場での行動・指導法について考える(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
8	指導実践	指導現場での行動・指導法について考える(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
9	指導実践	指導現場での行動・指導法について考える(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
10	キッズスポーツイベントでのボランティア活動	自身の役割を確認し、準備を行う(30分) 今回の授業内容の復習(1時間)
11	キッズスポーツイベントでのボランティア活動	自身の役割を確認し、準備を行う(30分) 今回の授業内容の復習(1時間)
12	イベント準備	必要な情報を集める(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
13	イベント準備	必要な情報を集める(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
14	イベント準備	必要な情報を集める(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
15	前期まとめ	前期の活動を振り返り、まとめる(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	高木 富士男				
授業方法	演習	単位・必修	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年（前期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 1-DP4 地域社会へのウェルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》

スポーツイベント等に参加するとともに、自らもスポーツイベントの企画運営に取り組む。
また、論文提出に向けた研究・調査・文作成を行う。

《教科書》

プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

《授業の到達目標》

スポーツ活動を自ら楽しみ、短期大学卒業後も障がいの有無にかかわらず多くの方のスポーツをサポートできるようになる。

《成績評価基準》

課題提出30%、授業の取組・受講態度20%、イベントの企画と実践50%

《成績評価の方法》

課題 30%
授業の取組 20%
その他（イベントの企画と実践） 50%

《参考図書》

大学生学びのハンドブック [5訂版] 世界思想社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	予習：福祉および障がい者に関するニュースを調べる（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
2	ポートフォリオ作成	予習：1年次の各自の取り組みを振り返りまとめる（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
3	ポートフォリオ作成	予習：1年次の各自の取り組みを振り返りまとめる（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
4	ポートフォリオ作成	予習：1年次の各自の取り組みを振り返りまとめる（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
5	スポーツイベントへのボランティア協力	予習：社会で行われているボランティア活動を調べる（60分） 復習：ボランティア活動を振り返り課題に取り組む（60分）
6	スポーツイベントへのボランティア協力	予習：ボランティア活動の意義を調べる（60分） 復習：ボランティア活動を振り返り課題に取り組む（60分）
7	スポーツイベントへの参加①	予習：スポーツイベントについて調べる（60分） 復習：スポーツイベントを振り返り課題に取り組む（60分）
8	スポーツイベントへの参加	予習：スポーツイベントについて調べる（60分） 復習：スポーツイベントを振り返り課題に取り組む（60分）
9	スポーツイベントの企画	予習：スポーツイベントの企画を考える（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
10	スポーツイベントの企画	予習：スポーツイベントの企画を考える（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
11	スポーツイベントの実践①	予習：スポーツイベントの準備をする（60分） 復習：スポーツイベントを振り返り課題に取り組む（60分）
12	スポーツイベントの実践	予習：スポーツイベントの準備をする（60分） 復習：スポーツイベントを振り返り課題に取り組む（60分）
13	卒業論文について	予習：健康・スポーツに関する関心のあるテーマについて考える（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
14	卒業論文について	予習：先行研究（論文）を検索し一読する（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
15	ポートフォリオ作成 前期のまとめ	予習：前期の取り組みをまとめる（60分） 復習：前期を振り返り課題に取り組む（60分）

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	星子 和夫				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年（前期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 1-DP4 地域社会へのウェルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》

本学科行事への参加はもちろん、学外でのレクリエーション関連活動やボランティア活動へ楽しみながら積極的に「見るスポーツ・するスポーツ・支えるスポーツ」テーマに参加していきます。そのことで、学生をはじめ、子どもや家族、成人、高齢者などの対象者に対し、どのように接することで共に喜び楽しみ、心を元気にすることができるのかを考え、計画および運営ができるように学習する。

《授業の到達目標》

「心を元気にする」を目標としたレクリエーション活動とともに、スポーツの視点からスポーツレクリエーションの推進を目指す。子どもから成人、障がい者に対する「支えるスポーツ」を実践しながら、地域住民と学生とが交流し、喜びを味わえるレクリエーション活動の体験を通して、今後の生涯スポーツ・生涯学習の振興とレクリエーション活動活性化の一助になることを目標とする。

《成績評価の方法》

課題 80%
授業の取組 20%

《教科書》

適宜プリントを配布する。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

各イベントごとに振り返り、問題点を提示・提案し考えることができるようにする。

《成績評価基準》

心を元気にするレクリエーション活動を達成するために、楽しみながら事業に参加し、あるいは指導してスポーツレクリエーションの魅力を感じ、まとめることができる。また、イベントに対する企画・運営についても順序立ててまとめ、情報を共有し計画的に安全に事業を実行することができる。さらに、実行後に振り返り次のイベントに活かすことができる。

《参考図書》

「ニュースポーツ百科」大修館書店

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、前期計画、団マラニックについて	年間計画を立て、ゼミ生の役割を考えておく(1時間) 年間計画を振り返り、ゼミ生の一員としての役割を自覚しておくこと(1時間)
2	ゼミ紹介作成、団マラ・あそびフェスタ	何を学びたいのかを考え、次のイベントに活かせるように考えておくこと(1時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)
3	ゼミ紹介作成、あそびフェスタについて	福浜健康体操、あそびフェスタについて考え、まとめておくこと(1時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)
4	あそびフェスタイベント指導参加1	イベント計画を立て、役割を理解し指導法を考えておくこと(1時間) 提案された内容を考え、まとめておくこと(1時間)
5	あそびフェスタイベント指導参加2	イベント計画を立て、役割を理解し指導法を考えておくこと(1時間) PDCAの内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと(1時間)
6	福浜健康体操1	対象者に適した運動・ゲームを考えておくこと(1時間) 対象者のサポートをして振り返ること(1時間)
7	福浜健康体操2	対象者に適した運動・ゲームを考えておくこと(1時間) 対象者のサポートをして振り返ること(1時間)
8	福浜健康体操3	対象者に適した運動・ゲームを考えておくこと(1時間) 対象者のサポートをして振り返ること(1時間)
9	福浜健康体操4	対象者に適した運動・ゲームを考えておくこと(1時間) 対象者のサポートをして振り返ること(1時間)
10	見るスポーツ「野球観戦」	選手や観客、場内・売店スタッフの行動と役割について考えておくこと(1時間) 観客のために行動を考えて、まとめておくこと(1時間)
11	オープンキャンパスの計画および準備	高校生の立場になって「おもてなし」について考え、まとめておくこと(1時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)
12	ユニクロサッカーキッズについて	役割と行動をまとめておくこと(1時間) 自分の役割や行動を復習しておくこと(1時間)
13	ユニクロサッカーキッズでの指導ボランティア1	子どもの安全を第一に、自分の役割や行動について考え、まとめておくこと(1時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)
14	ユニクロサッカーキッズでの指導ボランティア2	子どもの安全を第一に、自分の役割や行動について考え、まとめておくこと(1時間) PDCAの内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと(1時間)
15	福浜健康体操、前期のまとめ	前期のまとめとともに、後期イベントの準備を考えておくこと(1時間) これまでに学んだ内容を復習しておくこと(1時間)

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	小川 茜				
授業方法	演習	単位・必修	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年（前期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 1-DP4 地域社会へのウェルネスの貢献を有する。				

《授業の概要》

「キッズスポーツを支える人材」を目指し、学内外でのスポーツイベント、ボランティアに積極的に関わっていきます。学内の子ども向けイベントにおいて実行委員会として企画立案・指導を行います。積極的、主体的に取り組むこと、また責任感ある行動を期待します。

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

各提出物は評価・フィードバックをした上で返却します

《授業の到達目標》

1. キッズスポーツ、幼児体育を支える人材および社会人として相応しい知識、態度を身に付ける
2. 幼児体育や心理学、スポーツ心理学などの専門知識と実践経験を得る
3. スポーツ指導に必要な積極性、協働性、プレゼンテーション力、文章力を身に付ける

《成績評価基準》

1. 専門的知識や態度、指導力が身に付いている
2. 社会人としての教養が身に付いている

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート %
課題 % 実技 50%
授業の取組 50%
その他 () %

《参考図書》

「大学生学びのハンドブック(3訂版)」世界思想社編集部(編)世界思想社、「就職活動ハンドブック」西短進路指導部

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	大学生活で取り組みたい事について考え、まとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
2	個人面談、一般常識問題	就職活動の準備や一般常識問題の練習(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
3	指導実践	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
4	個人面談、一般常識問題	就職活動の準備や一般常識問題の練習(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
5	イベント準備	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
6	指導実践	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
7	講読	プレゼンテーションの準備(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
8	講読	プレゼンテーションの準備(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
9	ユニクロサッカーキッズでのボランティア活動	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
10	イベント準備	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
11	指導実践	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
12	講読	プレゼンテーションの準備(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
13	イベント準備	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
14	イベント準備	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
15	指導実践	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)